



海上交通が重要だった時代、志布志湾岸は広域交流の拠点として栄えていました。それを示すように古代の貴重な遺跡が志布志湾岸に多く点在します。

横瀬から益丸にわたる海岸地域もまた海への玄関口として繁栄しました。そして人々は、海からの恵みに感謝し、そして時代の有力者たちは、この地域を重要視していたのです。



2 子宝地藏 (左) 早馬 (右)

子宝地藏と言われているが、安産や子どもの成長を見守る観音菩薩『子安観音』である。

早馬は農耕牛馬の健康と安全を願って祀られた神。

昭和57年の持留川改修工事とともにこの場所に移された。



3 持留川旧河川跡

昭和初期の持留川の改修で現在の流路になっているが、これ以前の流路の名残を残す場所が残っている。



1 横瀬古墳

5世紀半ばに築造された大型前方後円墳。墳丘の長さは、約140mに及ぶ。県内では、東串良町の唐仁大塚古墳に次いで2番目の規模。昭和52・53年に鹿児島県教育委員会が行った発掘調査で周溝の存在が明らかとなり、平成22年・23年に大崎町教育委員会が行った発掘調査で周溝の外側を廻る外溝が確認された。

明治35年に盗掘に遭い、石室内は朱塗で、直刀、甲冑、勾玉が出土した。

ヤマト政権と深いつながりを持っており、大陸～南西諸島～近畿地方を結ぶ広域交流の拠点を掌握していた西日本を代表する首長の墓と推測される。

